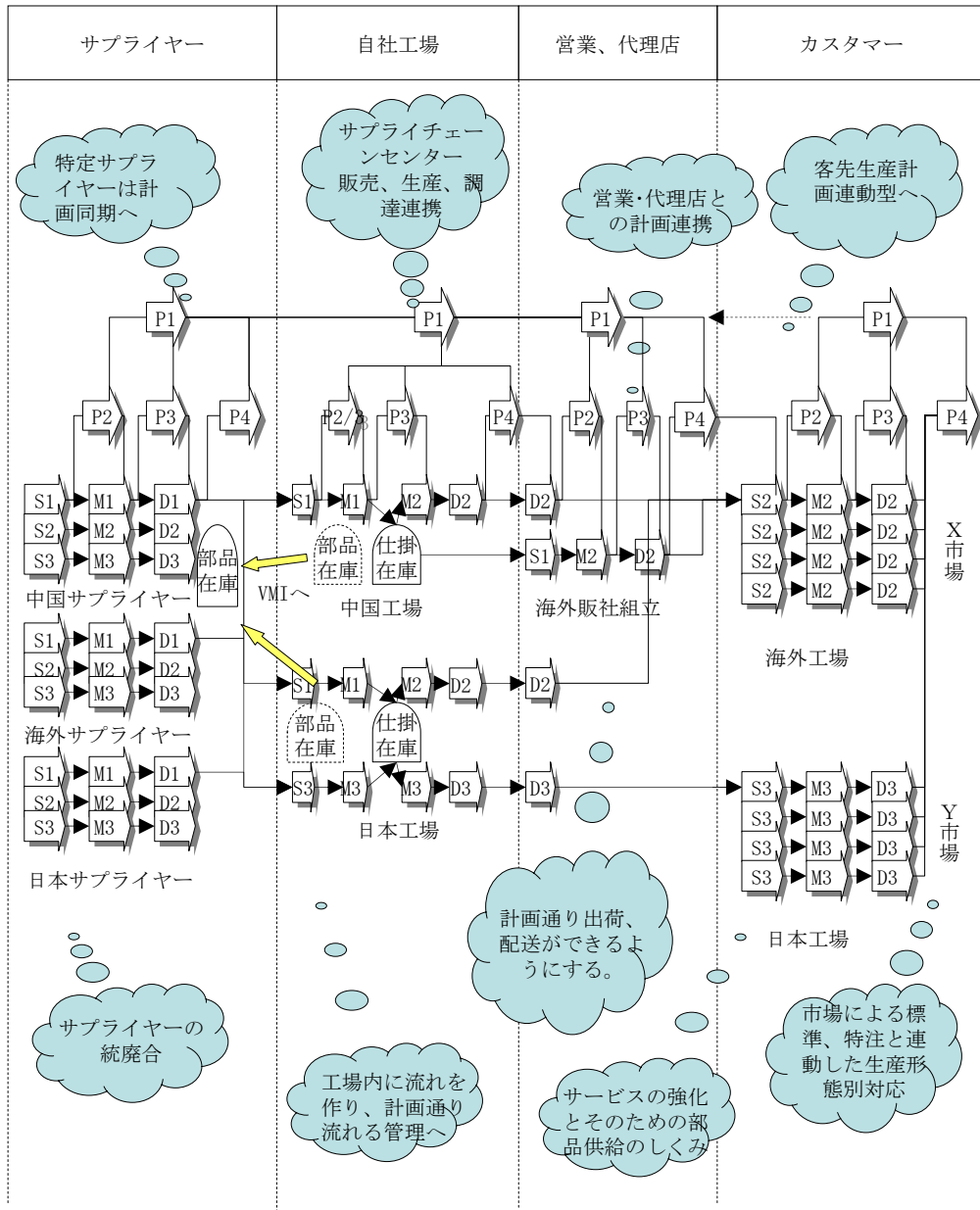
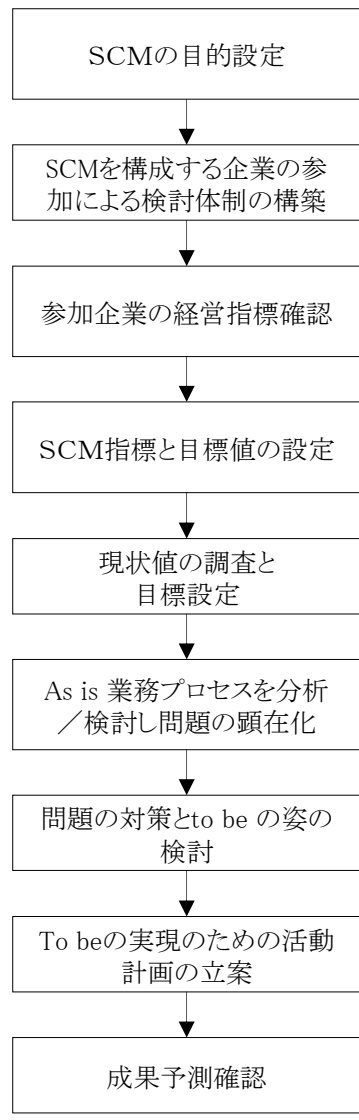


SC分析、目指すべき方向事例



展開ステップ



サプライチェーンを構成する組織・企業の全体を対象にそのプロセスを分析し問題を顕在化していきます。図のような現状分析を行い、そこに潜んでいる問題と対策を検討します。例えば、計画では、組織間連携が不十分なために、過剰な在庫や欠品が発生してしまっています。顧客要望を基準にサプライチェーンでの供給計画を連携立案し情報を一元化管理することが望まれます。調達では、全てのサプライヤーが連動し、短期間で、柔軟な対応が出来なければなりません。しかし一社でも問題があると、そこでサプライチェーンの能力が決まってしまう可能性があります。均等な能力育成・管理が必要なのです。日本の自動車産業における系列はこの連携のしやすい関係でした。生産では、工場内の流れが混乱し材料を投入してもいつ完成するか分からないといった問題を良く見かけます。計画と連動して納期通り生産、完成する工場にすべきです。販売・出荷では、出荷計画と連動し計画通り届けられる物流経路とその管理が求められます。このように全体を通して、サプライチェーン全体の流れの可視化、統合管理改革が望まれます。